

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

9年3月現在 逗葉大 子山船 地区地 区地地 計	会員数 150名 213名 41名 404名	9年3月(296号) 発行 者相 加編者 中編者 村集愛
---	------------------------------------	---

四月の予定行事

○神奈川地区大会コンクール予選

日時・4月13日(日) 9時受付

会場・横須賀労働福祉センター

○県本部総伝会

日時・4月13日(日) 2時30分より

会場・横須賀労働福祉センター

第108回全国吟道大会参加

県本部吟行会の件

○日程・9月27日(土)～29日(月) 2泊3日

○コース・2月号に掲載済み

○旅行代金・五万一千円

参加希望申込者には申し込み用紙を渡します。必要事項記入の上、全国大会出吟料を添えて提出。

○申し込み・旅行代金は後日払込日お知らせしてから払込んで下さい。

※碩心会申込者は4月20日迄に総務松井正岳方へ申込書と二千円を添えて提出。そして一括取りまとの県事務局へ提出します。

彌松松60 一般合吟の吟題

逗子地区・男子…偶成

” 女子…関山月(除真澄、幸和)

葉山地区・男子…城山(除堀内男子)

” 女子…峨眉山月の歌(除堀内)

大船地区・男子…武野の晴月

” 女子…太平洋

真澄+幸和支部…春日の作

堀内支部・男子…自詠

” 女子…生田に宿す

地区別 碩心会の合吟吟題

葉山地区・男子…太平洋

” 女子…金州城下の作

逗子地区・男子…偶成(木村岳風作)

” 女子…自詠

幸和支部会員追記

2月号に新支部会員名を記載しましたが、左記会員記載洩れに付追記いたします。
 名簿番号450 福田喜枝子(真澄より幸和へ)

種 別		許 証 料	消 費 税	合 計
少年少女	級二四高 位段段校 ・・・生 初三五(1 段段段 5才~18才) ・六段	5000 1,0000 1,5000 一般の半額	100 200 300 一般の半額	5100 1,0200 1,5300 一般の半額
一 般	級初初中奥皆総 位段伝伝伝伝伝 ・三五七九 二段段段段 段四六八十 段段段段 (泉山風下位 (号号号号号号) (号号号号号号) (号号号号号号) (号号号号号号)	1,0000 2,0000 3,0000 5,0000 10,0000 20,0000 30,0000	200 400 600 1000 2000 4000 6000	1,0200 2,0400 3,0600 5,1000 10,2000 20,4000 30,6000
師範位	準師正上 師 席 師 師 範範範範	10,0000 20,0000 30,0000 50,0000	2000 4000 6000 1,0000	10,2000 20,4000 30,6000 51,0000

松井岳洋先生七回忌

日本詩吟学院岳風会理事長、そして碩心会名誉会長でいられた松井岳洋先生が、平成三年三月一日逝去されて今年は七回忌…。命日の今日仏様におまいりさせて頂いた、在りし日の面影、又色々のことどもを思い浮べ感無量でした。

そしてその折、左記の方達が詠まれた短歌、俳句を短冊に書いて、仏前に納めさせて頂いた頂きました。松井先生、天上から碩心会をお守り下さい。

(松井先生七回忌に捧ぐ)

短歌 竹石 岳 泓

早きもの 碩心会の生みの親

松井先生 逝いて七年

誰にでも 親切なりし今は亡き

松井先生 目に浮び来る

短歌 長島 玉 岳

吟道を 導き給う師の英姿

逗子の渚に 懐古果てなし

俳句 岩崎 恵 岳

耳奥に残る吟声水温む

梅散るや早や七度の忌を迎ふ

俳句 山口 岳 夕

温顔は目裏まのうらにあり冴え返る

春寒し過ぎし日胸に忌を修す

俳句 石渡 桂 岳

七回忌星のまたたく春の闇

梅の香や師の韻読を懐かしむ

俳句 佐久間 爽 岳

桃花流水七たびの岳洋忌

天上の白梅かをる吟の声

俳句 寺脇 宇 岳

碩人をしのぶ心の七回忌

会名「碩心」とは

漢和辞典をひらきますと(碩)とは、大きい、盛んなどという意味が書かれています。

(碩人)すぐれた人物、大人。(碩言)立派な言葉。(碩学)学問が広い。(碩量)立派な人物、器量が大きい、等の例句があります。そこで(碩心)とは、ひろい大きな心、立派な心、心をひらく等の意味に解せます。

このように立派なすばらしい会名をつけて

下さった松井先生に心から敬服すると共に、

各人団結して、名実共の碩心会ならんと努力

したいものです。

三月尽さんがつじん

貝原益軒

今年こんねんの花事かじ今宵こんしやうに尽く
衰老すいろう期きし難がたし来歳らいさいの春はる
風光ふうこう我われに別わかる我われ何なんぞ恨うらまん
後人こうじんに留与りゆうよす千万せんばんじゆん春

(語 釈)

三月尽 旧曆三月三十日。春の終わり。

(訳 詩)

花の時節も 今宵(こよい)で終わり
老いの身に めぐり難きは 又の春
何を惜しまん この世の別れ
無限の春に 無限の子孫

(貝原益軒・一六三〇〜一七一四)

江戸時代初期の儒者。筑前黒田藩士。膨大な著書を残したが、その中でも84才の時の「養生訓」は特に有名で現在も読まれている。「養生訓」は生業に励むとともに、養生を重んずべきことを具体的に説いたもの。また紀行の書も多く、経済、教育などにもすぐれた意見をもち、国文をもって著述し、大衆化をはかった。

〃 吟道精神の唱和

高段者審査を終った次の稽古の日、更めて一巻の復習もよかろうと、教本の「序」にはじまり「吟道精神」をまず唱和いたしました。以前、各教場で吟をはじめの前に必ず唱和するよう心がけては、の提言がありました。一部に止まっているようです。流統伝承の根元であることに思いを致し、更めて唱和することもよいのではと思いました。

大会会場等で、〃吟道精神〃の中の一言が垂幕に書かれていることは御存知と思います。皆さん、教本をひらいて、もう一度〃吟道精神〃を唱和してみませんか。参考までに通釈を書いてみましょう。

(通 釈)

朗吟は、心のけがれをうち払い、われわれの怠慢や満ち飽きた心を追放し、肉体的にも精神的にも、血脈の流通を疏害するわだかまりを取り除いて「中和」の人徳を養って気質のかたよることを防ぐものである。〃気〃は吟道は〃気〃を養うの道である。〃気〃は生命の原動力であり、〃気〃が横溢すれば人の活力は溢れ、おとろえれば気抜きの状態と

なつて逐には生命力をも失なうに至る。

かくして吟道の栄ゆるところ、正しい道が
あまねくみなぎりわたり、朗詠の声は士気高
く朗々と響きわたるであろう。吟じ終ったと
きのすがすがしさ、思わず清風が吹き起つて
くる気分：これが吟道の真髄である。

十段の審査を終えて

行 谷 正 岳

3月16日、平塚農業会館に於て十段の審査を受けさせていただきましたが、最後の受審を終え、何か一区切できたようなホッとした気持ちがいいたします。私は昭和51年11月から滝の坂支部の教室で、吟友の皆さんと仲よく楽しく、詩吟の勉強をしてきて、ここまで到達できたのも、偏えに先生始め、皆さんのお陰と感謝、厚く御礼申しあげます。

さて審査当日は、あいにく朝から雨模様でしたが、定刻には控室も受審者で満席となり、緊張した空気が漲っていました。審査は、六教室に30名位宛に分れて行なわれ、3時過ぎには全員の審査が終了しました。そして控室に於て、各審査室の担当の先生から審査結果の講評がありました。緊張が解け、はればれと

した顔の受審者の方々が、吟法についての注
意点や、今後の参考事項等、熱心に聞き入っ
ていました。講評の中で「ご高齢で受審され
た皆さんが大変立派に吟じられた」との言葉
もあり私達も見習わなければと痛感しました。

最後に、佐藤岳昭本部長より「今日の審査
では、特に良くもなく、又悪くもなく全員合
格」の発表があり、「十段受審者は、これが
最後の審査となったので、今後は初心に戻り、
初めから勉強するように」との励ましのお言
葉があり、審査会は無事終了しました。

懐かしく過去をふり返ると、楽しかった事
も沢山ありましたが、反面、温習会や、色々
の大会で、勉強不足のため、時には吟の出だ
しが高すぎたり、低かったり、又途中でつか
えたりして見事に失敗、もう詩吟は止めよう
と思ったことも何度かありました。昇段審査
の際も頬がひきつり、吟が思うように出来ず、
書取りでは、いつも緊張のあまり手が全く動
かなくなり苦労した事等、忘れられない思い
出となることでしょう。

審査の終わったその夜、降るように輝いた満
点の星空に向って、今日の課題吟をもう一度
思いきり吟じてみました。何処からか「もっ

と勉強しなさいよ」と、今は亡き滝の坂支部
の生みの親、佐久間溪岳先生の声と、かすか
に春の足音が聞えてくるような気がしました。
溪岳先生は、にこにこした笑顔で、きつとい
つまでも滝の坂支部を見守って下さると思ひ
ます。

これからは、本部長がいわれた通り、更に
吟道に精進し、教室の〃和〃の輪を広げ、碩
心会発展の為に努力する所存です。故溪岳先
生を始め、上村、佐久間両先生、そして、教
室の皆さん、本当にありがとうございました。

御夫婦仲良く皆伝受審

2月9日、平塚農業会館での皆伝審査会を
終えた二、三日後、長柄支部の宮本明風さん
が許証料をわざわざ我が家（許証部長・岳郵）
へ届けにこられ恐縮しました。「よかったですら
ちよつとおあがり下さい」といったら、「いや、
車を止めてあるもので」と云われました。
私は「どなたに送っていたんですか？」
と聞いたら「いやいや自分で運転してきた
んです」と云われ、私は「ほんとう！」と云
ってしまいました。明風さんは偶々今年車の
免許更新により、又三年は運転できるとか。

ちなみに、年令を書いたら失礼になるかも
知れませんが、明風さん83才、奥さんの香風
さん81才で、長柄支部に所属され、今回二人
仲よく皆伝を受審、めでたくお二人共合格さ
れ、来る五月一日付で皆伝認許されます。
宮本さんの、年にみえないシヤンとした姿勢、
又奥様もお年よりはるかに若くみえ、二人の
生き様を学ばせていただき、私達もかくある
べきと思ひました。昇伝おめでとうございま
す。益々の御健康を祈ります。

(移籍)

左記三名が大船A支部より(栄支部)に移籍

247 岡本瑞岳 260 加藤玲風 357 加藤力山

(入会)

465 角田邦子 葉山町一色二一七九

(一色) 〇四六八一七五―三九二七

466 齊藤 誠(再) 葉山町一色二二五六―四

(滝の坂) 〇四六八一七五―七三〇五

467 永野信子 葉山町堀内一三二二―一

(駒・F) 〇四六八一七六―一九六〇

468 矢嶋友里枝 葉山町堀内一〇二

(駒・F) 〇四六八一七六―一六六

469 高梨以岳(再) 葉山町堀内五八四

(駒・D) 〇四六八一七五―〇四九三